

なは地域貢献便り 12月

「なは地域貢献便り」は、那覇市内の社会福祉法人等施設が、地域の応援団として取り組む情報誌です。

去る9月28日(月)第4回那覇市社会福祉法人等施設連絡会(本庁地区)が開催され、構成施設による意見交換が行われました。その概要を報告いたします。



構成施設

- ・(社福)そてつの会
- ・(社福)ポップラ福祉会
- ・(社福)うるま福祉会
- ・(医)正清会
- ・(社福)雅福祉会
- ・(一社)ハーネス
- ・(社福)那覇社協

第4回本庁地区の構成施設で開催された連絡会の報告

そてつの会



社会福祉法人そてつの会
施設長 盛島光司氏

- ・H27 地域貢献室 夏休みを利用して古蔵中の生徒もボランティア活動で受け入れ(延べ2000名を超える生徒を受け入れ)→受け入れた生徒が新入職員として入社した=福祉教育
- ・ゆいまー塾(パンの無償提供)不登校や学習困難な生徒を受け入れ→高校入学出来るまでにつなげた。
- ・那覇市社協とピザづくり教室を実施。真地地域の子どもたちが参加。
- ・「山城塾」場所の提供。元校長の山城さんと協働。
- ・学習指導・軽食の提供(20名程度の不登校生を受け入れ)
- ・多子世帯の子供たちの利用が多い。
- ・毎日製造、販売しているパンを塾生に無料で提供。
- 1日1食の子どももいるのが現実。
- ・地域の方々からもおにぎりの提供や協力を得ている。

社会福祉法人そてつの会は今年、法人化23年を迎えます。わたしたち《社会福祉法人 そてつの会》は、障がい者の就労の機会を提供と共に、障がい者の方々のニーズに合った様々な福祉サービスの提供と向上に努めてまいります。

1. 就労移行支援事業所「ドリームワークそてつ」
2. 就労継続支援B型事業所「ドリームワークそてつ」
3. 就労継続支援B型事業所「ドリームワークそてつの実」
4. 就労継続支援B型事業所「ドリームワークそてつ森」
5. グループホーム「つばがわそてつの家ⅠⅡ」
6. グループホーム「うえぼる そてつの家ⅠⅡ」
7. グループホーム「おろく そてつの家」
8. 指定相談支援センターそてつ

ハーネス



一般社団法人ハーネス
理事長 嘉手川重一氏

- ・自治会設立に協力
- ・かわら版を発行し、見守りを実施。
- ・子どもたちの登下校の付き添いをして、見守りを実施。
- ・通りで、筋トレをしたり高齢者の課題に工夫を凝らしている。
- ・歩いていける距離で弁当配達をしている。
- ・令和元年の4月からは、那覇市樋川1丁目の与儀市場通り地域で自治会設立に関わり、事務局を担っています。そして地域情報誌「かわら版」を発行し、各家庭に配達しながらの見守り活動を行っています。

一般社団法人ハーネス(ハーネス)は2015年10月05日に法人番号が指定された沖縄県那覇市にあるその他の設立登記法人です。一般社団法人ハーネスは、精神科に通院する仲間たちを運営の中心に据えながら地域で暮らす赤ちゃんから高齢者まで、障害のある方や生活に困っている方が安心して暮らすことのできる地域社会を目指してのボランティア活動センターです。

うるま福祉会



うるま福祉会
理事長 高良桂子氏

- ・昼夜併設の保育園を運営。県のモデル事業として実施した。
- ・昔は子供の数が多かった。国際通りにあったが、人口減少がみられ、現在は20名程度が利用。
- ・食事の提供。夜に子供たちだけで食事をしている家庭のため、子どもの居場所「たまごやかん」を運営。現在は利用者はいないが、いつでも利用できるようにしている。
- ・夜間預かっている母親は、生き辛さを感じている。保育園を卒業後の夜間学童も検討。夜間保育の運営も厳しいなかで職員の協力も必要で、一緒に考えていきたい。
- ・放置されている子たちに支援が届くようにしていきたい。

地域で最も身近な児童福祉施設として乳幼児保育を行う。児童の最善の利益を守り、よりよい保育を行う。○玉の子保育園/定員100名(0歳児~5歳児) ○玉の子夜間保育園/定員20名(0歳児~5歳児)一時保育事業(自主) 夜間保育事業

雅福祉会



雅福祉会
理事長 兼 城照美氏

- ・平成16年に、何もない新都心で保育施設を開所。児童クラブを運営してきた。
- ・地域のごみ拾いを子供たちと実施。→福祉教育
- ・地域で仕事をしている身として、自治会や民生委員と連携してきた。→地域の困りごとと一緒に解決してきた。
- ・中学生と子ども園とふれあい会で、中学生にも良い変化が現れる。
- ・登校しづり支援→愛情を注いで支援。相談窓口が必要だと思う。第1子で戸惑いを感じている親、関わり方に困っている親→子どもの性格を理解して子育てすることが大事であり、そのための親支援の場が必要
- ・地域でいつでもだれでも相談できるような場が必要(例一担当区域の民生委員児童委員等で当番制の受け入れ等)
- ・地域柄、転勤族が多く繋がりが希薄している地域。→受け皿が必要。

「愛の空間で心身共に豊かにみやびやかに育つ」事業運営
○みやび認定こども園
○みやびの杜保育園
○松島子ども園
○みやび児童クラブ

正清会(久田病院)



医療法人正清会
事務局長 久田護雄氏
看護部長 大城盛博氏

- ・精神科病院でも、福祉関係の職種が多くなる。医療の対象者でなくても、切り捨てるのではなく、診断がつかなくても困りごとを吸い上げている。
- ・子どもたちに本を提供。夏休みの自由研究の材料を提供。(南部市町村広域で社協に提供)
- ・非常食の期限を早めに設定し、フードバンクに寄贈。
- ・送迎車で地域の見守りを実施している。
- ・看護学校を目指している方への無料塾を実施。8か所の高校生から社会人まで幅広く利用
- ・看護学校終了後、看護師免許の取得を目指す人を対象に国家試験の学習支援を実施。
- ・重度の障害のある方の写真展の実行委員にボランティアとして関わっている。

最新の医療を行います。地域との連携を大切にします。地域のメンタルヘルスセンターを目指します。214床 ○精神科急性期治療棟/47床 ○精神科棟/59床 ○認知症治療棟/48床 ○精神療養病棟/60床 ○介護老人保健施設うりずん ○障害福祉サービス就労継続支援B型 ○ライフサポート久田

沖縄県社協



社会福祉法人
沖縄県社会福祉協議会
地域福祉部主任
大城利公氏

- ・那覇市は規模が大きく、行政区毎に課題が異なることがわかった。
- ・特に、難しい課題とも思われる福祉人材の育成について、どの施設も大事なテーマとして捉えており、県社協としても、市町村社協とタイアップして福祉教育の分野と工夫した。法人間連携のヒントが確認できた。
- ・今日の会議も、法人間連携の前に社協とのつながりが大事であることを理解いただけたと思う。
- ・是非とも公益的な取り組みの意義について各法人は、役職員一体となって話し合っていたらいい。

まとめ 那覇市社協のCSWの所見

社会福祉施設の地域貢献の可能性のヒントとして、いくつかのポイントが見えてきた。
①地域の身近な相談できる拠り所 ②技術の提供(介護、医療、分野ごとの専門集団の力を活かす 講話や出前講座) ③食の提供等、施設機能の活用 ④施設の開放等新たなことをやるというのではなく、今持っている力を活用する。⑤地域課題として、「担い手不足」が挙がるが、子どものうちからの福祉教育が将来的に地域の担い手として活躍することが期待できる。



(左から) 那覇市社協本庁地区 新垣聡美 首里地区 神田貞幸、CSW 統括主任 仲程大輔 本庁首里補佐 玉城里恵

地域の関係者とのネットワークづくりに一役買っているホーム喫茶について



社会福祉法人ゆうなの会 法人事務局 金城 満

はじめに

老人ホーム大名（以下、ホーム）の経営母体である社会福祉法人ゆうなの会は「地域と連携した高齢者福祉の拠点として、高齢者と家族の健やかな生活に貢献します」を経営理念に掲げ、ホームも「地域と共に、ボランティアと共に歩む老人ホーム」を施設運営のスローガンに掲げており、これまで地域と支え合い、助け合う施設運営を行ってまいりました。

ホームと地域との交流は多く、毎月第4金曜日の夜開催される「ホーム喫茶」をはじめとして、毎月第3土曜日に開催される「ふれあい交流会」、首里大名町の地域組織である大名地域福祉推進会と連携して行われる「大名地域福祉大運動会」、「(地域高齢独居世帯等への) 友愛訪問」、「(ホーム入居者の) カジマヤー地域パレード」等の各種行事、その他大名地域福祉推進会、地域の自治会、民生委員・児童委員、ボランティア等の協力を得て行われる「大名まつり」をはじめとするホームの各種行事があります。また大名地域自治会からの要請があれば、ホーム職員のエイサー隊が地域の夏祭りに出演したり、地域の会議や敬老会等の会場としてホームの会場を利用していただくこともありました。

ホームの各種行事やその他ホームを支えてくれるボランティアも含めて考えると、地域の皆様には日頃より何かとお力添えを頂き、感謝の念に堪えません。

今回、地域の関係者とのネットワークづくりを振り返るに当たり、欠かせないのは、普段から地域とのお付き合いを大切にし、顔の見える関係で地域とのネットワークを強化させていったホームの諸先輩方の存在が挙げられます。またもう一つの大きな存在が、本日テーマとして取り上げる、地域とのネットワークを強化させるきっかけとなった「ホーム喫茶」の存在です。



大名まつりの様子



幅広い年代が参加する大名地域福祉大運動会



老人ホーム大名のカジマヤー地域パレード

ホーム喫茶とは

ホーム喫茶は毎月第4金曜日に開催されるパーティー形式の行事であり、ホームの入居者・利用者やそのご家族、ホーム職員だけでなく、多数の地域住民やボランティア、福祉関係者の皆様に参加いただき、美味しい料理やお酒に舌鼓を打ちながら、毎月来るゲストの余興や参加者同士の交流を楽しみにしていただいております。

開催回数は令和2年10月時点で419回を重ね、参加者同士の親睦を深める場となっており、地域の自治会役員や大名地域福祉推進会のメンバー、民生委員・児童委員、ボランティアその他多くの地域住民と職員も加わり、参加者同士がお酒を酌み交わしながら親睦を深め、時には議論を重ねながら参加者同士のネットワークを強化させてきました。

ホーム喫茶が毎月開催されることによって、地域の皆様が自由にホームへと出入りする雰囲気を作り出されて「地域の人々が集う場」となり、ホームと地域の結びつきが強くなるのが結果として、地域関係者とのネットワークを強化していくことに繋がり、それが大名地域福祉推進会と連携した各種行事の共催や、地域の皆様がホームの各種行事等に参加・協力してくださったり、またボランティアとして手を貸してくださることに繋がったと思っています。

誰でも気軽に参加できるホーム喫茶だからこそ、地域に浸透した行事となり、施設の理解者・協力者の輪を広げる役割を果たしてくれたのではないかと考えています。



ホーム喫茶の様子



おわりに

近年は新型コロナウイルス感染症の報道を見ても分かるように、高齢者の重症化リスクの高い感染症であることから、ホーム入居者や利用者、職員を守っていくために、現在はホーム喫茶を始めとする各種行事の開催を残念ながら見合わせざるを得ない状況にあります。また来年にはホームの老朽化に伴う改築工事も控えていることから、これまで通りの地域との交流が難しい状況になりつつあります。

だがこの新型コロナウイルス感染症の猛威が弱まり、また改築された新しい老人ホーム大名が完成した際には、地域との交流を再開し、地域関係者とのネットワークを更に強化して、ホーム入居者はもちろんのこと、地域の皆様が「住み慣れた地域で安心して暮らしたい」というささやかな願いを支えることのできる拠点として、その願いを支援できるような地域連携の在り方を地域の皆様と共に模索していきたいと考えております。